

公開セミナー（国際学部 30 周年記念セミナー）

「社会科学の過去・現在・未来」報告

高橋 源一郎

2016 年度公開セミナーは、国際学部 30 周年セミナーとして、9 月 20 日から翌 2017 年 1 月 17 日まで、15 回にわたって行われました。本学部は、もともと学際的な性格を持つ学問の場所であり、そのため、公開セミナーも、常に多彩なメンバーを集めて開催されてきました。30 周年となる 2016 年は、それまでの集大成となるような公開セミナーとするべく鋭意準備されてきたのです。

なにより、国際学部の 30 年は、大学にとっても社会にとっても大きな変化にさらされた時期でもありました。いま、大学も社会も、どんな未来を目指すべきなのか、混乱のさなかにあると思います。そんな時代に開催される公開セミナーは、その大きな問いに答えなければなりません。そこで、テーマを「社会科学の過去・現在・未来」として、単に国際学だけではなく、社会科学のあらゆる分野で、過去を総括し、いま緊急の課題を考え、そして、その学問と社会の未来を見通すことを目指しました。そのため、このセミナーでは、(1) いままで一度も、このセミナーに登壇されたことのない人、(2) 当該分野で、現在もっともアクティブな活動をしている人、(3) また当該分野で、もっとも若手として知られている人、(4) そして、同時に、その分野を超えた活動をしている人、といった基準を設け、交渉にあたりました。幸い、声をかけた講師の方々は、みなさん、このセミナーの趣旨に賛同し、セミナーへの参加を快諾していただくことができました。感謝の念にたえません。

第一回にお迎えした白井聡さんは、『永続敗戦論』で社会に大きな衝撃を与えました。戦後日本は永続的な「対米従属」の中にいる、という白井さんの視点は、聴衆に新しい社会の風景を見せてくれたと思います。

第二回の講師、古市憲寿さんは、まだ 30 歳を少し越えたばかりで、当学部とほとんど同じ年齢の社会学者。テレビで見かけることも多いでしょう。今回は、ステレオタイプな若者論とは異なる視座で、若者について語っていただきました。

第三回の講師、三浦瑠璃さんも、テレビの論争番組で最近見かけることが多い、気鋭の国際政治学者。平和・国際安全保障と戦争の問題をめぐり、タブーなき意見を聞かせてもらいました。

第四回の講師、木村草太さんも、ここ数年メディアの露出が多い憲法学者です。鋭い憲法論は、観念的になりがちな憲法論を「使えるもの」にするアイデアに満ちていました。

第五回の講師、鈴木涼美さんは、異色の女性社会学者でありタレントです。アダルトビデオの女優として活躍した後、自分自身の経験を修士論文にまとめ、その後『「AV 女優」の社会学』として出版しました。自分の身体を学問の対象とする希有な本の作者の言葉は刺激的でした。

第六回の講師、荻上チキさんは、ラジオのパーソナリティとして有名ですが「ウェブ社会論」「イジメ論」「流言・デマ」の研究者でもあります。どんな学者よりも「現在」を知る荻上さんの意見に目を開かれた聴衆も多かったと思います。

第七回は政治学者・佐藤信さんをお招きし、この回だけは、本学名誉教授で元国際学部付属研究所所長でもある政治学者・原武史さんに対談の相手をお願いしました。政治という生々しい世界と学問を架橋する困難な仕事をしているお二人の対談は、政治についての新しい視座を感じさせてくれました。

第八回は社会福祉士で社会運動家の藤田孝典さんをお招きしました。藤田さんは NPO の代表として反貧困活動に従事されていますが、著書『下流老人』のヒットでも知られています。「老人の貧困」は、現代の象徴とでもいうべきものですが、聴衆の多くが、自分自身にふりかかりうる問題として、藤田さんの話に耳を傾けていたのが印象的でした。

第九回の講師は政治学者で歴史学者の中島岳志さんですが、中島さんは「パール判事」「秋葉原事件の犯人・加藤智大」「テロリスト・朝日平吾」と、毀誉褒貶する人間を学問の対象としてきました。保守・リベラルの二分法を超えた、新しい政治の定義を模索する中島さんは話し方も情熱的でした。

第十回は哲学者の國分功一郎さんをお招きしました。國分さんは『暇と退屈の倫理学』で新しい哲学の考え方を提示したり、その一方、地元の社会問題にも真摯に取り組み、それを哲学の課題にもしています。現実と無関係に見える哲学を現実の社会に連れ出す國分さんのラジカルな姿勢に共感する聴衆も多かったように思います。

以上が長いですが、今回の公開セミナーの「前期」にあたります。ここからは、もう少し、本学部と関係の深い方々をお招きすることにしました。

第十一回は、第七回にも登場していただいた本学名誉教授で政治学者の原武史さんをお招きして、いまもっとも重要な問題に浮上した「天皇」について語り尽くしました。

第十二回は、やはり本学出身で、元研究所所長でもある文芸評論家・加藤典洋さんをお招きし、加藤さんの最新の著書を中心に「戦後とは何か」「敗戦とは何か」について語り合いました。同時に、加藤さんの口から洩れる、「国際学部 30 年の歩み」とそこでのさまざまな出来事は興味深いものでした。

第十三回は、当大学卒業生で社会活動家の仁藤夢乃さんをお招きしました。仁藤さんは、今回登壇された講師の中で最年少の 27 歳です。路上を迷う女子高生たちをサポートする仁藤さんのお話は、親や祖父母の世代が多い聴衆のみなさんに新鮮なショックを与えてくれました。

第十四回は、わたしのゼミの学生たちが登壇しました。これは、わたしのゼミの学生たちが出版した『読んじやいなよ！』（岩波新書）について語りながら、「大学とは何か」「教育とは何か」「学ぶとは何か」について、みなさんに考えてもらいたいと思ったからでした。

そして、最終回の第十五回は、シークレットゲストとして、当日まで登壇者の名前は伏せることにしました。登場してくれたのは、本学部卒業生で、前年、安保反対運動の過程でその名を知られるようになった「SEALDs (シールズ)」の創設メンバー・奥田愛基くんでした。奥田くんとは「学生」「大学」「社会参加・政治参加」について語り合いました。

長い十五回の公開セミナーでしたが、たいへん充実したものだったと自負しています。

明治学院大学 国際学部30周年記念 2016年度 公開セミナー開催



明治学院大学に国際学部が創設されて30年がたちました。この30年は、社会にとっても、大学にとっても、学問にとっても大きな変化の期間でした。いま大学における学問は、とりわけ社会科学は、その存在意義が問われています。学問はどこから来て、どこに向おうとしているのか。その最先端で活躍している人々を招き、考えていきたいと思えます。

国際学部付属研究所長 高橋 源一郎

社会科学の過去・現在・未来

明治学院大学 横浜キャンパス 7号館 720教室
京戸塚駅東口/スターミナル6番乗場江ノ電/バス「明治学院大学南門」/車約10分/終点下車すぐ
 各回いずれも16時45分～18時15分 定員500名

無料

申込不要
(先着順)

構内・近隣
駐車場
ありません

9月	
① 20日(火)	白井 聡 思想史家 政治学者 京都精華大学 対談 高橋 源一郎
② 27日(火)	古市 憲寿 作家 評論家 東京大学大学院在籍 対談 高橋 源一郎
10月	
③ 4日(火)	三浦 瑠麗 国際政治学者 東京大学政策ビジョン研究センター 対談 高橋 源一郎
④ 11日(火)	木村 草太 法学者 首都大学東京 対談 高橋 源一郎
⑤ 18日(火)	鈴木 涼美 社会学者 作家 対談 高橋 源一郎
⑥ 25日(火)	荻上 千キ 評論家 編集者 対談 高橋 源一郎
11月	
⑦ 8日(火)	佐藤 信 政治学者 東京大学先端科学技術研究センター 対談 原 武史
⑧ 15日(火)	藤田 孝典 社会福祉士 社会運動家 聖学院大学 対談 高橋 源一郎
⑨ 22日(火)	中島 岳志 政治学者 歴史学者 東京工業大学 対談 高橋 源一郎
⑩ 29日(火)	國分 功一郎 哲学者 高崎経済大学 対談 高橋 源一郎
12月	
⑪ 6日(火)	原 武史 政治学者 放送大学 明治学院大学名誉教授 対談 高橋 源一郎
⑫ 13日(火)	加藤 典洋 文芸評論家 早稲田大学名誉教授 対談 高橋 源一郎
⑬ 20日(火)	仁藤 夢乃 社会活動家 女子高生サポートセンターColabo代表 対談 高橋 源一郎
2017年 1月	
⑭ 10日(火)	高橋ゼミ生
⑮ 17日(火)	シークレットゲスト 対談 高橋 源一郎

プログラム内容は変更の可能性があります。
最新情報は、下記WEBをご覧ください。

【問合せ先】 明治学院大学 国際学部付属研究所
TEL.045-863-2267 (平日10時～17時)

【WEB】 <http://www.meijigakuin.ac.jp/~iism/>



